

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4772100048		
法人名	社会福祉法人 与勝福祉会		
事業所名	グループホームやすらぎの家		
所在地	沖縄県うるま市勝連南風原4914番地		
自己評価作成日	平成25年7月19日	評価結果市町村受理日	平成25年12月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>○事業所は小高い丘の上に位置して、金湾を見渡せる風光明媚な場所にあります。家庭的な雰囲気や環境を大切にして、安心安全に暮らしています。 ○施設内での年中行事が多彩で、家族や地域の方との交流の場となっています。 ○利用者の方の希望や状態に応じて、ドライブ外出や買い物支援を行っています。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kan=true&JiyosyoCd=4772100048-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	平成25年8月13日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>県内で初めて設立されたグループホームとして、利用者が地元自治会行事に常に参加し、これまで地域の一員としての役割・関係が築かれている。また設立以降特に「家族とのつながり」を伝統として継承し、現在は家族から運営についても管理者や職員へ直接要望や意見が出されるようになり、家族がホームのサポーターとしての役割を果たしている。利用者の協力を得ながら3食ともホーム内で食事を作り、健康面への配慮だけでなく、食材の買い出しや下ごしらえ、後片付け等が毎日の生活の中心として位置付けられている。一人一人の生活歴や趣味を踏まえた居室づくりを工夫している事業所である。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

確定日：平成25年11月25日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度、事業所介護理念を分かり易い言葉にして見直し、ケア目標を共有して毎日唱和し実践しています。	これまで掲げてきた理念を踏まえて3つの柱にまとめ、誰もが覚えやすく分かりやすい理念につくり変えている。朝の申し送り後に唱和し、掲示して共有を図っている。県内で初めて設立されたホームであり、これまで理念に基づき家族や地域とのつながりを地道に築いている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年中行事の際は外出して、家族や地域との交流を深めています。	法人全体で地元の自治会に加入し、利用者はハリーやエイサー等地域の行事に毎回参加し、また、地域住民と日常的に交流している。現在は利用者の出身自治会のミニデイサービスにも参加して交流を図っている。日頃より顔馴染みの住民から野菜や魚の差し入れがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解を深めるために、各公民館で開かれる認知症キャラバンメイトの研修会へ参加しました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2か月に1回開催し、入居者や家族、地域の方が参加して事業所での実践状況を報告したり、様々な意見を受け入れてサービスの提供を拡げています。	利用者・家族・行政担当者等が参加して2か月に1回定期的に会議が開催されている。利用者の状況や行事、外部評価結果や介護事故等も報告されている。参加委員一人一人から意見を伺い今後の会議の課題に繋げている。元管理者が運営推進会議推進委員として参加しており、相談やアドバイスを受けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	会議には市町村担当者が参加しているの、事業所の実践状況や介護保険の概要・地域密着型の在り方等の相談にのって頂いています。	家族から認定調査に係る疑問等があった時には運営推進委員の行政担当者へ照会している。行政よりキャラバンメイトの要請を受けているが、今年度は実施されていない。行政と連携して市内にあるグループホームの連絡会を開催したいと相談をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束をしないケア、その行為を理解するように心がけています。利用者の行動を抑制しない対応を話し合っ実践しています。	職員が法人組織の身体拘束廃止委員会に参加している。いつでも利用者や家族が出入り出来るよう、夜間帯を除いて昼間は玄関の鍵を開けている。家族には契約時に身体拘束に関するリスクを説明している。緊急やむを得ない行動・心理症状が見られた場合は、身体拘束を行う場合があることも伝えている。	

沖縄県（グループホームやすらぎの家）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者がグループホーム連絡会の研修会で学んだことを事業所職員にさらに伝え学び、利用者への虐待が見逃されないように留意し防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定例会やケア会議では、高齢者へのさまざまな支援事業・制度について伝えていきます。現在等事業所では、該当する方はいませんが必要時は支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結には、契約書の説明と疑問点に答え解約時には次の行き先を支援し決定後に解約しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方々の面会や訪問、一緒にの外出ができるような機会を持ち、全職員に希望や意見が伝えられるように心がけています。	運営推進会議やサービス担当者会議に利用者及び家族が参加した際に意見等を聞き、職員は個別の外出時や居室にて利用者から希望や意見を聞く機会としている。設立以来家族とのつながりを伝統として引き継ぎ、現在は家族から管理者や職員へ直接要望や意見が出るようになっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所での定例会やケア会議では、職員の意見や要望を受けて管理者会議などで提案しています。	毎月定例で約2時間全職員が参加し、行事予定・業務改善・ケア会議を含めて行っている。職員からの要望を受け、現在昼間30分程度休憩を確保することになっている。人事異動については法人組織で決定されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人規定や定款を確認し、職員が働きやすい環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での勉強会は、定期的に行われ研修課題や内容も多彩です。年度末には各事業所で取り組んでいるケアの実践を報告発表しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡会へ加盟して、研修会や情報交換会へ参加してサービス提供が向上できる様に心掛けています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と家族との関係、またその関わり方や思いや希望を傾聴し、介護計画に取り入れています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族が希望する暮らし方を聞きながら、事業所での暮らし方や個々の意見を大切にしている事を伝え、その都度相談しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の気持ちを確認して、負担にならないような支援から取り組むようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理・洗濯物たたみ・掃除やゴミ出しなどは声掛けをしながら一緒にできるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年中行事には、外出・外泊を勧め利用者と家族が過ごせる機会を持って頂き、職員も一緒に出掛ける事もしています。 事業所の行事には、準備段階から家族の参加協力を依頼して実践できています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅や家族宅への外出や外泊を勧めこれまで通りの関係が維持できる様にしています。 旧正月や旧盆・清明祭には外出、または外泊を殆どどの利用者が行う事ができました。	本人の希望により自宅まで外出し仏壇の供え物や掃除等を行っている。また出身地のミニデイサービスに参加してこれまでの馴染みの方との交流を図っている。家族とは一緒に買い物に出かける機会はあるが、馴染みの関係や場所に関する詳しい情報の把握は殆ど家族からとなっている。	

沖縄県（グループホームやすらぎの家）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士で参加できるように、趣味や年齢、共通の話題が出来るように心がけています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居してからもボランティアの形で訪問して頂き、認知症の進行を遅らせたいと、願う家族の思いを尊重する事ができました。法人内施設へ入所した方々の面会に行ったり、その御家族が事業所に何度も来ていただいています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の暮らし方に対する思いや希望を把握・確認して、一番には本人の思いを通してしている。	これまでセンター方式を用いてアセスメントを行っていたが、現在は利用者からの意向や希望は個別に聞き取り、定例会において職員全員で把握している。自分から意見を表出、出来ない方は職員が本人の行動等から推察して代弁している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活環境を把握する事ができた。入居が決まった時は自宅を訪問して自宅環境や生活のサイクルを詳しく収集する事ができました。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方や心身の状態など、気づいたこと共有しなければいけないことはケア会議や連絡帳や業務日誌で把握するようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族との関わり方、思いや希望を聞きながら、担当職員が意見やアドバイスをケア目標に挙げる事を努力しています。	更新時期に見直しが行われているが定期的なモニタリングは行われていない。管理者がケアマネ業務を兼務しており、管理業務が優先となり一連のマネジメント業務が滞っている。一人一人のこれまでの暮らしぶりのアセスメントが不十分なため、地域で暮らし続けるための個別の介護計画まで落とし込まれていない。	定期的なモニタリングを実施し、定期的及び随時の見直しを行い、現状に即した個別の介護計画書の作成が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の状況を業務日誌に記録して、ケア会議ではそれぞれの職員が担当利用者を中心に意見交換やアドバイスを行う事ができています。		

沖縄県（グループホームやすらぎの家）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態に応じて、通院や往診の対応を行っています。御家族が面会に来た時には、昼食や夕食・おやつと一緒に取る事もします。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のミニデイサービスへの参加や近隣スーパーへの買物、業者の方との挨拶で交流を持つ事ができました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居してから主治医を変えることなく、これまで通りの関係を保っています。また、何でも話せるかかりつけ医を持ちたいと入居時に変更を相談協力しました。	基本的には家族対応の受診だが、症状が気になる利用者は管理者が同行している。通院時の家族との情報交換は口頭や電話、文書等で、職員はケア会議等で共有している。往診の医師より介護についてのアドバイスを受け、週1回歯科医師から口腔ケアについてのアドバイスを受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化に素早く対応して、法人内の看護職との連携し指示や観察を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院や受診の時は、医療機関へ情報の提供や交換を行っています。透析が必要と考えられるかたには、相談にのったり医療機関とのつながりが行えるように支援しました。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や体調不良時、超高齢者には施設でどこまで行えるか本人や家族がどこまで希望するか看取り看護の在り方について、主治医や家族とマニュアルを作成し検討しています。事業所の方針を明確化できるよう、毎回相互理解できるように話し合いをしています。	看取りに関する事業所の方針については、現在検討中である。管理者が看護師でもあり、マニュアルも作成され、医師や家族、職員等の関係者全体的話し合いも行われている。家族の付き添い等具体的な話し合いも行われ家族から「安心しました」との言葉ももらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内での消防署による、救急救命講習会へ参加したり、事業所では定例会やケア会議、自主的に救命処置講習に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火・避難・通報訓練を年2回実施しています。うち1回は、夜間を想定して行い、一人夜勤時の対応や応援体制をおこないました。地域との連携や依頼はまだ行われていません。	スプリンクラーや一斉通報装置が設置されている。隣接する特養と協力して夜間想定を含めた訓練が年2回行われているが、地域住民の参加や協力はなかった。避難経路については事業所内に掲示されているが、災害用の備蓄は準備されていない。	利用者の安心・安全の確保及び職員の不安を軽減するためにも、地域住民の協力を得て連携し、避難訓練に取り組んでいく事が望まれる。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いを丁寧にし、伝わり易いように方言を交えて会話するように心がけています。	管理者は「親しくなっても家族ではない、人生の先輩であり、感謝し、常に敬う心を持って接するように。やり過ぎのケアをして利用者の心を傷つけないように」との考えを職員と確認している。トイレが共有空間のソファから真正面に位置しているため、カーテンの合間から利用者の排泄場面が見える状況にあった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重し、納得できるような生活支援をしています。 外出希望日や家族への面会・電話での報告を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の思いや希望を聴き、無理強いせず、集団での生活が過ごす事ができるようにしています。本人が専念している時は、無理に他の行動には誘わない支援を心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれは自信で行うことを基本として、お気に入りの整髪料や髪形、アクセサリー、鞆などを持って頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、メニュー通りの日が多いですが季節毎に食べたい食材や差し入れなどを工夫しています。調理方法や下ごしらえは、利用者の方々の意見を活かして作っています。下ごしらえ、かたづけなど得意な方が行っています。	利用者は職員と一緒に食材の買出しに出掛けたり、野菜の下ごしらえや片付け、調理にも参加している。地域住民から野菜や魚の差し入れもあり、3食とも事業所で調理している。職員は利用者と一緒に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量、取り方の状況は全職員が把握しています。水分は、いつでも自分でも取れるような場所に置くようにしています。栄養状態が分かる様に担当の医師から検査結果などで情報を頂いています。		

沖縄県（グループホームやすらぎの家）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアが自主的に行う事ができるように、声掛けうながしをしています。歯ブラシやスポンジブラシは、それぞれの状況に合わせて利用しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗の原因を観察して、支援の方法や本人に合った工夫を心掛けています。	日中は排泄パターンを把握して適時に声かけし全員トイレ介助をしている。夜間は、「紙おむつははきたくない」との利用者の意向を尊重し、ポータブルトイレの利用者が多いが、紙おむつの利用者もいる。異性介助になった場合は、予め本人の了解を得ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の解消に向けて、食事の工夫や水分摂取量、運動や腹部のマッサージなどを行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望や体調をみて入浴支援をしています。シャワー浴や浴槽に入りたい等環境も整えています。毎日入浴や夕方の入浴など希望を聞いていますが、あまり希望者がいません。	入浴は一日置きで、時間は午前の場合が多いが、利用者の希望があれば毎日や、夕方でも対応することとされている。入浴拒否がある場合は下半身浴で対応している。異性介助になる場合は羞恥心に配慮し、時間をずらして同性介助の支援をしている。入浴剤を使用して入浴を楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を大切に、レクリエーション活動や趣味を活かした活動を多く取り入れています。昼寝や好きな時間帯に寝る事ができるようにしています。寝具類はこまめに取り替えています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の目的や作用・副作用については、十分に理解し状態の変化をきちんと観察できるようにおこなっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	事業所の日課はありますが、一人一人がご自分のペースに合わせて過ごしています。朝が早いので、気の合う方達でコーヒーを飲んで飲んですごします。		

沖縄県（グループホームやすらぎの家）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	喫茶店やパーラー、大型スーパー等にドライブや買い物に出掛けます。家族と待ち合わせてショッピングを楽しむ事もします。	日常的には、利用者も一緒に敷地内にある東屋のペンキ塗りをしたり、朝は木陰で皆でレクをし、民謡を聞いたりしている。個別の外出は、化粧品やアクセサリを買に出掛けたり、妻の顔を見に週に4～5回出掛ける利用者もいる。平均2日に1回、少ない人でも週に1回外出支援が行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布の管理が出来る方は、家族の了解を得て本人で管理しています。買い物の時に自分で小銭で支払うことができます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族に会いたい時には電話を入れて、声を聞かせたり家族へも来所が難しい時は電話でのやり取りを勧めています。年賀状や暑中見舞いなどを送り久々の対面ができるきっかけともなりました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所全体を清潔に明るくして、共用の場所は季節毎に飾り付けを行いました。居室内は備え付けの家具を置き、自宅ですべてのものをできるだけ使っています。	毎朝5時に換気を行いカーテンで西日対策もしている。居間は利用者の趣味や特技を活かした季節感のある手作りの飾り付けが施されている。3年前からウイルスバスター(医療用)を導入し咳のひどい時は居室に設置する等し、風邪をひく利用者はいなくなった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用での居間や食堂には、ソファーや椅子を設けています。畳み間もあるのでベットや椅子の生活が多くなる中、畳間で足を伸ばす事もあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には備え付けの家具が用意してあります。自宅で使い慣れた物の持ち込みも可能であることを伝えていきます。プレゼントされた小物類を飾っています。	年に2回(5月と11月)利用者と一緒に買い物に出掛け居室のカーテンや暖簾を替えている。居室内は利用者の好みや思い出の物が飾られ、家庭的な雰囲気に配慮されている。管理者はいずれは看取りの場所として自宅と同様な環境づくりが必要と考えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全室バリアフリーとなっており、居室からトイレ・浴室までに手すりを設置してありますが、もっと必要です。各室内入口には名称が書かれていて分かりやすくしています。		